

第 11 回日本カプセル内視鏡学会学術集会 会長挨拶

会長：大阪医科大学第二内科 教授 樋口和秀



テーマ：「カプセル内視鏡のさらなる発展を目指して」

このたび第 11 回日本カプセル内視鏡学会学術集会を 2018 年 2 月 10 日（土）～11 日（日）に京王プラザホテル（東京）において開催させていただくことになりました。

本学術集会は GI week 2018（2 月 9 日（金）から 11 日（日））として、第 14 回日本消化管学会総会学術集会（会長：獨協医科大学 加藤広行先生）と第 50 回胃病態機能研究会（会長：東京医科大学 河合 隆先生）と合同で開催されます。消化管学会終了後の 2 月 10 日（土）の夕方に、胃病態機能研究会と合同でイブニングセミナーおよび懇親会を開催いたしますので、こちらにもどうぞご参加ください。

小腸カプセル内視鏡が保険認可されて約 10 年が経過しました。日常臨床でも当然の検査になりつつあります。その一方、大腸カプセル内視鏡は、前処置の負担の問題でやや一般的な普及にブレーキがかかっている状態です。そこで、カプセル内視鏡のさらなる発展を目指して、2 つのシンポジウム「大腸カプセル内視鏡での安楽で診断精度の高い前処置法に向けた工夫」「カプセル内視鏡がもたらしたインパクトと Second Decade に向けての新たな試み」と 2 つのワークショップ「大腸カプセル内視鏡による腫瘍性病変の診断学の進歩」「開業医におけるカプセル内視鏡の現況」また、「読影支援に関する現状・問題点・新たな試み」や「興味深い 1 症例」などのミニワークショップも企画いたしました。

また、学会と並行して読影トレーニング委員会による「認定医・指導医および読影支援技師の更新対象者向けセミナー」が開催され、その受講証明書は更新申請の際に利用可能となります。

本学術集会は、以上のように大変盛りだくさんで興味深い内容になったものと思います。多くの方々にご参加いただき、カプセル内視鏡の更なる発展を目指して活発な討論がなされることを、心から期待しております。